

## 第2回 昭島市男女共同参画推進委員会

### 議 事 要 旨

〔日 時〕 令和4年8月26日（金）18：30～20：30

〔場 所〕 アキシマエンス校舎棟 201会議室

〔出席者〕

#### 1 委員

柴田邦臣委員長、掛川亜季副委員長、岡部操委員、若林とき子委員、小林美和委員、長谷部高史委員、  
牧野愛子委員、向井翔兵委員

#### 2 事務局

滝瀬子ども家庭部長、渡辺女性活躍支援担当課長、渡邊男女共同参画センター担当係長

#### 3 傍聴者 0名

〔配布資料〕

- 1 第1回昭島市男女共同参画推進委員会 議事要旨
- 2 昭島市男女共同参画プラン 令和3年度進捗状況委員評価及び意見一覧

〔議事要旨〕

#### 1 開会

資料の確認及び説明

第1回男女共同参画推進委員会議事要旨につき、ご確認いただき、ご意見は8月31日（水）までにご連絡  
いただきたいと思います。

「令和3年度進捗状況委員評価及び意見一覧」について、委員の皆様にはお忙しい中、目標Ⅰ～Ⅳまでの  
評価とご意見についてご回答いただき感謝申し上げます。評価等は、主要施策毎に皆様の評価、優良不可  
を記載、ご意見は、黒い丸で施策全体について、番号で各課の事業毎のご意見となっている。質問には矢  
印で回答を記載し、本日は、こちらの「評価及び意見一覧」と前回お出しした、資料4進捗状況報告書等  
に基づき、ご審議をお願いします。

その他に、第1回委員会でのご質問の回答を配付。市内外国人の人数は表のとおりである。指導課の自己  
評価について確認したところ、様々な人権課題に取り組んでおり、男女共同に特化しているわけではない  
ということから、控えめにBとしたが、可能であればaに修正していただきたいとのことである。そのほ  
か3事業についても修正依頼があり、変更した後の「報告書」のP5/6と「目標Ⅰ～Ⅳごとの担当部課の評  
価内訳」を配付し、指導課の評価部分変更と担当部課の事業数合計についても変更があったため、修正し  
ている。

#### 2 議題

(1) 男女共同参画プラン目標Ⅰ～Ⅳの評価について

目標Ⅰ 3多様性への理解の促進

① 多様性を認め合う意識づくり

② 性の多様性に関する啓発及び性的マイノリティへの支援の充実

◇事務局より説明

多様性への理解の促進は、今回の男女共同参画プランで新規に組み込んだ分野であり、性の多様性についての情報提供・啓発活動の促進、性的マイノリティに対する相談体制・支援の充実などは事業区分では継続がほとんどであるが、モニタリング値で相談件数が0件というものもあるため、周知方法等も一歩踏み込んでさらに推進に努める必要がある。

◆評価：①可②良

進捗状況報告書の全体に言えることだが、今後の予定については記載があるが、具体的な課題とそこにどうアプローチするかが見えてこない。また、女性活躍支援担当課の自己評価が甘い。また、記載内容が重複しているので、一つ評価が高いと、他も高いという事が気になる。

①コロナ禍でも、できる限りの活動を行ったと思うが、秘書課の相談件数が0件で自己評価がbというのは、コロナ禍であっても評価が甘かったのではないか。

②教育する立場の方々、および将来を担う子どもたちへの啓発は評価できる。これからの時代は、多様性がテーマになってくると思われるので、今後の取り組みに期待する。

No.14市民会館・公民館 このような講座に男性が足を運びやすい工夫をしていただきたい。

No.15女性活躍支援担当 相談員が常勤であることを周知できれば尚可。

No.15指導課 コロナ禍において、特に心のケアが大切になっている。スクールカウンセラーの役割も大きくなってくると思われる。スクールカウンセラーについて、コロナ禍により相談件数が増えていると聞いている。役割が重要になっているので、力を入れてほしい。【長谷部委員】

◆評価：①良②良

①問題が無いと思ったので「良」とした。【小林委員】

◆評価：①優②良

①コロナ禍においても多様性を認め合う意識づくりは歩みを止めず実施していくことが重要である。中止することなく人権パネルを市民の目に触れる場所に展示したことは高く評価できる。また、事務をする上で負担が多い部分を減らしていこうとする取り組みも評価できる。

No.13秘書課 展示期間はもう少し長くても良いかと思うが、他の業務の都合がある場合は仕方ないと思う。効果的に実施できている事業とできていない事業の差があると感じる。形骸化されないように粘り強く実施を継続していく必要があると感じる。テーマ自体が近年注目されてきた内容であるので、まずは普及する側の理解度を高めていくことが大切である。

No.14女性活躍支援担当 非常に良い取り組みだと感じた。

No.14指導課 資料を配布するだけでなく、資料にしっかりと目を通し、実効性のある啓発をしていくことに意味があると思う。

No.14市民会館・公民館 評価理由、事業の効果欄に記載されている内容と担当課評価に矛盾を感じる。この理由でなぜ評価はCなのか。全10回で参加者10人ということは、セミナー1回に1人しか参加してないということか。もしそうであれば、1回につき、3万円を超える支出は費用対効果的にどうなのか。

No.15秘書課 人権身の上相談というタイトルからどのような内容を相談していいのか伝わっていないように感じる。

No.15女性活躍支援担当 常勤の相談員がいる体制は高く評価できると思う。周知が広まれば、利用したい市民は多くいると思うので、継続して実施していただきたい。

No.15指導課 このようなカウンセラー制度がある旨を児童や保護者へ継続して周知していただきたい。

No.16秘書課 新規に職員向けに人権啓発事業を立ち上げたことは高く評価できる。

No.16職員課/女性活躍支援担当 特に上位の職の職員が受講することが望ましいと感じる。

No.16指導課 特定の教職員だけが受講するものではなく、可能な範囲で多くの職員が受講する必要がある。

【向井委員】

◆評価：①優②優

体感ではあるが認知度は高いと思う。

①見学者数の集計はできていなくとも、子ども達を含め認知度は高いため優とした。

②No.14女性活躍支援担当 性について悩みが深くなる中学生に、「性」への価値観についての記事を読んでもらえたことは価値があると思う。

No.14市民会館・公民館 全10回の講座であればかなり充実した内容ができそうだが、担当課評価がcなので今後の講座に期待したい。

No.15秘書課 性的マイノリティ専門の相談体制とまでいえなくとも、相談を実施していることを評価したい。

No.15女性活躍支援担当 相談員が常勤であることは悩みを抱えた方にとって心強いと思う。

No.16職員課/女性活躍支援担当 通常業務もある中で、研修の日程が合わなかったり事情があると思うので、今後参加できる時に参加していけば良い。【牧野委員】

◆評価：①良②良

ポスターの掲示やパンフレットの配布等も実施していて良いと思う。【若林委員】

◆評価：①良②良

①指導課の事業は注視しているが、学校は連携を取りながらしっかりと行っているので良いと思う。

③ No.14市民会館・公民館 性の多様性に特化したセミナーがあっても良かったと考える。

No.15秘書課 相談件数が0件は、事案がないとすれば評価されるが、一方で周知広報活動が十分であったか、検証できると良い。

No.16職員課 なぜ、派遣できなかったのか。広報が不十分だったのか、職員が多忙でそもそも研修受講できない状況なのか。

No.16女性活躍支援担当 なぜ、研修の実施に至らなかったのか。【岡部委員】

→回答：他の分野に係る研修やセミナーを実施したため、多様性の研修の実施に至らなかった。

★学校や若い世代には啓発が進んでいるのではないかと。秘書課の新規の人権啓発新聞等の啓発は認知を図るために良い取り組みと思うが、一方で懸念されるのは、研修について実施ができていないことや、参加申し込み者がいないということで、研修の必要性に対する職員の意識が低いのではないかとするため「良」で良いと思われる。【掛川副委員長】

☆評価：①良②良

委員の意見からも、事業は進んでいるが、弱点もあるということで両方を「良」とする。【柴田委員長】

## 目標Ⅱ 4あらゆる分野における女性活躍の推進

① 女性の活躍推進に向けたポジティブ・アクションの普及啓発

② 女性のキャリア形成に向けた支援

③ 市職場内及び市主催事業、審議会等における女性参画の推進

④ 地域における女性リーダーの育成

◇事務局より説明

目標Ⅱ 女性活躍とワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進も新規の分野であり、

4のあらゆる分野における女性活躍の推進が重点施策になっている。各部署で啓発に関する情報提供や、

講座開催、相談体制を充実させている。また、市職員管理職における女性の割合が 24.3%となっており、令和7年度までの目標 20.0%を既に達成しており、今後は地域での女性参画を促すために、自治会や地域団体への働きかけの方法に検討が必要と思われる。

◆評価：①良②良③優④良

男女共同参画と銘打ち女性が重点的に語られているので、今後は男性も含めるよう変えていく必要がある。

①コロナ禍で活動範囲が限られる中、これまでとは異なるアプローチを行っている点は評価できる。ポジティブ・アクション自体が女性に限定するものではなくってきていると思われるので、今後の対応に期待したい。

②以前に比べ、外部機関、近隣自治体との連携が図れていると思うので、今後もこの流れを継続していただきたい。社会情勢が変わり、支援が必要なのは女性に限られなくなっている。将来的に、その点への対応が必要になる。

③目標値を前倒してクリアしている点は素晴らしい。設定された数値の変更は不可能とは思いますが、新たな目標値の設定を期待する。

④決定権は、各団体、自治会にあるので、すぐには改善できないのが難点。継続した啓発活動に期待する。PTA役員時代に感じたが、懇親会が夜間に設けられるため、女性の参加が難しい状況が多々あった。時代とともに、変わっていけば良いと思う。地域団体に活動することは、家庭や仕事とのマルチタスクとなる。幼い子どもを抱えながら、活動に積極的に参加することは、相当の負担となる。ご家族のサポートも必要になることである。逆に団体によっては、例えばPTA等は男性の参画が望まれる。【長谷部委員】

◆評価：①良②良③優④良

①特に問題なく、コロナ禍なのでできる事をすれば良いと思う。

②取組の成果が出ていると思う。

③成果が出ているので優で良いと思う。【小林委員】

◆評価：①優②良③優④良

①全体的には、コロナ禍でも積極的に展開しており、高く評価できる。しかし、まだ認知度は高いとは言えない状況であると感じるので、継続して広報を展開していただきたい。

②情報提供や広報は継続して実施していただきたいが、その方法や効果などは毎年検証し、より効果的なものを実施していく必要があると思う。特にこれからキャリアを築いていく中・高生への効果のある育成は最重要と感じる。

No.19産業活性課 周知させたことで、どの程度の効果があったのか。評価の理由、事業の効果欄には周知したことでどのような効果があったのかを記載していただきたい。どのような検証で評価がbとなったのか。

➡回答：周知させたことで、セミナー等の申し込みは多く、女性の就業、再就職の相談、情報提供の場となっている。しかしながら、担当課評価では、セミナー等の全面的な協力はしているが、主催ではないためbとした。

No.20産業活性課 セミナーにはどの程度の人が参加したのか。継続して実施するとしても実施の効果を検証して、市民のニーズを考慮していくことが必要と感じる。

➡回答：11月は50人定員、58人申込み、42人参加・2月は50人定員、60人申込み、24人参加（コロナ拡大のため）

③狙いのおおりに、性別にとらわれることなく本人の希望や能力により平等な参画が大切であると思う。高く評価できる。

④女性の参画率向上のためにどのようなことに取り組んだか不明である。多様な意見を取り込むために意識していることは評価できるが、まだまだ女性の参画率が高いとは言えないと感じる。数字を向上させる

ことは大切だが、まずは個人の考えを尊重することが重要であることは忘れてはいけないと感じる。

No.22・23生活コミュニティ課 地域団体の女性参画率は低いので、多様な意見を反映させるためにも女性の参画率向上は必須であると思う。【向井委員】

◆評価：①優②優③優④優

①No.17産業活性課 コロナの影響がある中でも、可能な限り取組ができていますので優にした。

②No.18指導課 キャリア教育は進んでいるように感じる。

No.19産業活性課 十分取組ができています。就職したい女性にとって心強い。

No.20産業活性課 創業希望者の発掘のためにも、市民にもっと周知されてほしいと思う。

③目標値を達成できているので優とした。

④No.22・23生活コミュニティ課 役員人事について各自治会が決定している以上、女性の参画を促す取組で十分だと思う。【牧野委員】

◇自治会それぞれで役員決めをしているので、市として各自治会にアプローチは可能と思う。しかしながら、自治会自体の加入率が下がっている。他団体としてウイズユースや地域の団体等男性が多いところから女性を増やした方が良い団体と、PTAのように女性が多いため、男性を増やした方が良い団体とある。どちらも男女の意見が組み込まれていくあり方が必要であり、市として情報発信に取り組んでいく。【事務局】

◆評価：①優②良③良④良

①No.17産業活性課 コロナ禍において適切だと思う。

No.17女性活躍支援担当 女性しごと応援テラス、多摩ランチはとても助かる。

②No.18女性活躍支援担当 企業との交流会、職場体験でとても力になることと思う。

No.18指導課 子ども達にとって、とても良いことだと思っている。

No.19産業活性課 適切である。

No.19福祉総務課 コロナ禍において特に困っている人が多いので、支援等に力を入れてほしい。

No.19福祉総務課 土曜日の特設相談も開催し、良くやって頂いていると思う。

No.20産業活性課 セミナー等を行って相談、情報提供をして、力になることと思う。

No.20女性活躍支援担当 良いと思う。

③No.21職員課 令和2年より令和3年、令和4年と少しずつ割合が増えているのでいいと思う。

④女性の参加は多いと思うが、役職がつくとなると男性が多いと思われるが良くやっていると考える。

No.22生活コミュニティ課 女性の割合がもっと占めていると思ったが、思いのほか少ないことに驚いている。

No.22女性活躍支援担当 女性リーダーの育成を頑張ってほしい。

No.23生活コミュニティ課 とても難しいことではあるが、話し合いを進めていただきたい。

No.23女性活躍支援担当 女性リーダーの活躍の促進を力強く進めていただきたい。【若林委員】

◆評価：①優②優③優④優

記載のとおりであり、良いと思う。【岡部委員】

★向井委員の質問No.19等の主管課からの回答に、「全面的に協力をしたが主催でないためbとした」というものがあるが、充実した内容であればbである必要はないと思われるため、次年度以降の主管課評価では実質を見てもらった方が良い。民間、地域団体については市として呼びかけているところはあると思うが、若林委員の意見のとおり、女性の参加は多数でも、リーダー層には男性が多いということがあり、啓発を進めていただきたい。家事育児は女性の仕事であるという意識があるため、女性が地域活動に参加をした場合でも、その間男性に家事育児等を分配していないということでもあるので、その点の意識の改革をどのようにしていくのかということが必要となる。【掛川副委員長】

◇産業活性課は共催では多く事業を実施していることを聞き及んでいるが、主催ではないため、控えめな評価であったと思う。委員会からの意見として主管課に伝える。【事務局】

◇資料に不備があったため、修正し、改めて送付する。【事務局】

☆①優 ②良 ③優 ④良

③目標値をクリアしているので、優とする。目標を達成しているので新たな目標値を設定してはいかがか【柴田委員長】

## 目標Ⅱ 5 働く場におけるワーク・ライフ・バランスの実現

### ① ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方の推進

### ② 事業所におけるワーク・ライフ・バランスについての意識啓発

◆評価：①可②良

①「ワーク・ライフ・バランス」という言葉が独り歩きし、「ワーク」と「ライフ」の両立を図るため、どちらに対しても一生懸命となり、疲弊する状況が起こっているように感じる。これからの時代は、男女問わず、仕事から一旦離れたとしても、キャリアの中断が生じないシステム（社会）が必要となってくると思われる。市が率先して革新的なシステムを推し進めてくれることを期待したい。

②最終的な決定は各事業所に委ねられるので、取り組みの効果は見えにくい。引き続き、啓発を進めていただきたい。

No.28職員課 「イクメンパンフレット」の作成や育児休業取得者が増加している点などは評価できる。将来的に、「イクメン」という言葉が死語になるような社会に向けて、取り組みを進めていただきたい。イクメンが目立つということではなく、男性が自然に家事育児をする社会を期待する。【長谷部委員】

◆評価：①良②良

特に問題はなく良いと思う。【小林委員】

◆評価：①良②優

①取り組み自体は評価できる。

これは、私個人の考え方だが、男性の育休取得率は数値を向上させることが目的では効果がないと思う。男性が育休を取得したことで、男性が家事や育児を積極的に実施し、家族や家庭の負担が軽減されていなければ本来の目的ではないと感じる。やみくもに取得させるのではなく、本来目的が達成できる育休の取得率向上を目指していただきたい。昨今は男性が育休を取ることが認知されてきていると思う。今後は育休を取ったことで家族に還元されることを期待する。

また、担当者評価に疑問を感じる。評価や課題などは明確に記載をお願いしたい。

No.24職員課 コロナ禍で行政の業務量が増大してしまったことが大きな要因であると思うが、結果として時間外勤務時間数が増大しているのであれば、評価bは適切であるとは思えない。コロナ禍のような状況であれば、やらなければならないことはやる。今やらなくていいことは休止し、業務量の調整をしなければワーク・ライフ・バランスの推進はなかなか達成できないと感じる。

No.24産業活性課 課題を挙げていないのに評価がbなのは、なぜか。

➡回答：セミナー等の全面的な協力はしているが、主催ではないためbとした。

No.24女性活躍支援担当 課題を挙げていないのに評価がbなのは、なぜか。

➡回答：概ね十分であると考えているが、更なる新たな啓発方法等を検討したい。

No.25産業活性課 課題を挙げていないのに評価がbなのは、なぜか。

➡回答：セミナー等の全面的な協力はしているが、主催ではないためbとした。

No.25女性活躍支援担当 課題を挙げていないのに評価がbなのは、なぜか。

➡回答：概ね十分であると考えているが、男女双方に向けた多様な働き方の啓発方法をさらに検討したい。

② 経営の悪化や慢性的な人員不足など解決が困難である現状もある中で、意識の向上に努められていると評価できる。

No.26産業活性課 挙げられた課題は、行政の立場から解決に向けた取り組みは困難なように感じる。担当者評価はaでも良いと思う。

No.28職員課 取得促進とともに、取得した際の本来の目的について理解促進も実施していただきたい。

【向井委員】

◆評価：①優②優

① No.24職員課 コロナの影響もあったと考えられるため、年次有給休暇の取得日数の減少や時間外勤務時間数が増加したという結果であっても、ワーク・ライフ・バランス推進のための啓発活動は今後活かされる可能性が高く、評価は優とした。

No.24産業活性課 啓蒙の効果はすぐに出るものではないと考えられるため、引き続き期待したいと思う。ただ、5～10年位前に比べるとだいぶ浸透していると思う。中学校の保護者会の開催も土曜日で男性の参加率も高い、評価は甘いかもしれないが、優とする。ただし、向井委員のご発言のとおり、育休等もはや取っただけではなく、子ども等に還元されるべきである。お父さんが育休中でも、子どもさんが保育園に通っていることもあるようなので、取得率と実際が合っていないということが分かる。

また、業務では、ワーク・ライフ・バランスは分かってもいっても仕事があればせざるを得ない。残業が無理なら昼休みを削る、早朝出勤するということになればそれも本末転倒であると思う。まずは、啓蒙が進んでいるということで、優にした。

② No.26産業活性課 事業所の状態により実施が困難であっても、男女共同参画やワーク・ライフ・バランスの推進が意識として浸透している点に価値があると考え優とした。

No.28職員課 男性職員の育児休業取得率が高く、取組の効果があつたと判断できると思う。【牧野委員】

◆評価：①良②良

自分は自営のため、職場に通っている人は大変であると実感した。知人も来月子どもが産まれるので育休を取るという話を聞いた。普及してきており、良いことだと思う。

① No.24産業活性課 チラシ等配布を何人位見ているのか。

➡回答：東京都作成のチラシを預かり設置しているため、把握していない。

No.25産業活性課 参加者は何人位なのか

➡回答：11月は50人定員、58人申込み、42人参加・2月は50人定員、60人申込み、24人参加（コロナ拡大のため）

② No.28職員課 育児、介護休業は女性の負担が少なくなるので、良いことと思う。【若林委員】

◆評価：①良②良

この問題は非常に脚光を浴びていると思う。主要事業の文言を見るとNo.24・25ともに啓発である。啓発だけであると担当評価が概ね十分であるという事で、抽象的である。そのため、施策の方向にある「働く場におけるワーク・ライフ・バランスの実現」に向けて今後しっかりと具体的な提示の必要があると考える。そうすることにより、達成値を数値で明確にすることができると思う。また、目標指標にある男性職員の育児休業の取得率がなぜ31.3%なのか、多摩地域の他市の取得状況やどのような施策を工夫して実施しているのか、担当の方で研究等してはいると思うが、報告書ではそれが読み取れないため、そのようなことも分かったら良いと思う。そして、現場の職員の声をしっかりと拾って、施策を作成する際には参考にしてもらいたい。学校もそうであるが、月45時間以上の残業がだめだと言われれば朝早く出勤したりして、何とかしようとしてしまう。それでは本末転倒なので、職員が真に働きやすい職場を作ることが上の人の使命でもあると思うので、良い形で進めていただきたい。【岡部委員】

★委員の皆様のおっしゃるとおり、育休の取得などは周知されてきていると思う。社会全体としても進んできていると思う。岡部委員のとおり、他自治体との比較や、単なる啓発に留まることなく実を伴う内容になっているかを検証できれば良いと思う。国全体の施策に言えることであるが、そもそもワーク・ライフ・バランスとは育児をするためのものであるのか、子どもがいない人はワークだけしていれば良いのかという問題がある。そうではなくワーク・ライフ・バランスはそれぞれの人がそれぞれの大切なことをするために時間をとるためにあるのであり、仕事だけではなく、その大切なことの一つが家族と過ごす時間や、育児の時間である。

しかし、この施策は育児のことが中心的になってしまい、本当の意味でのワーク・ライフ・バランスからずれているのではないかと思えて仕方がない。このことは、子どもがいない家庭や、シングルの方は「男女共同参画は自分たちにとってはマイナスである」というイメージになり兼ねなくなってしまう。ワーク・ライフ・バランスで育児休業を取る人が増えれば増えるほど、仕事のしわ寄せがくるという形に捉えられてしまう。そこの部分の手当がきちんとなされなければ、社会の分断を招いてしまう。産業の方も人の手配を含めて余裕がないと厳しい。ただ、問題意識として育児のためだけにあるのではないと考える。【掛川副委員長】

☆ワーク・ライフ・バランスの表現について自分も微妙であると思っている。働くために生きているように見えるので、用語としてはライフ・ワーク・バランスではないかと考える。

①良②良とする。【柴田委員長】

## 目標Ⅱ 6 家庭生活におけるワーク・ライフ・バランスの実現

① 子育て支援サービスの推進

② 介護支援サービスの推進

③ 男性の家事・育児・介護等の参画の環境整備

◆評価：①良②優③優

先ほどの話でもあったが学校の保護者会は男性が極めて少ない、学校見学等に参加すると男性が自分一人だととても肩身が狭いときがある。居場所がなく場違いではないかというイメージがある。【長谷部委員】

◆地域差もあるかもしれない。またZOOMでの参加であれば半数が男性であったりもするので、男性が皆さん保護者会等に参加したくないと思っているわけではなく、そういう部分も啓発等が必要かと思う。【牧野委員】

◆確かにZOOM等で開催されれば、男性が参加しやすくなる。【長谷部委員】

◆男性が多く参加していることが周知され、女性が多いことを気にせず参加する男性も増えると良いと思う【牧野委員】

◆①少子化の流れの中、支援サービスの充実と雇用の確保という両面を何とか続けていただきたい。

「【家庭生活】における男女の待遇や立場が対等になっていると感じる」人の割合については、男女の評価（回答）は相対的な動きを示すと思われ（実際に過去の調査でも、この傾向が見られた）、男女とも上昇するという現在の目標値の設定には、やや無理がある。

②今後はダブルケア（育児と介護を同時に担う状態）も増え、この分野において、男性の役割はますます重要になってくると思われる。男性をターゲットにした取り組みを増やしていただきたい。

③コロナ禍において、男性が家事、育児に携わる時間が増えていると思われる。男性が家事、育児に関わることが当たり前の社会になるよう、今後も様々な取り組みを進めていただきたい。【長谷部委員】

◆評価：①良②優③良

全体的に細かく実施されていると思った。

②取組の成果が出ていると思う。【小林委員】



◆評価：①優②優③優

①待機児童解消や母親が孤立しないようなサポート体制確保に向けて事業を展開できていると感じる。子育て環境の整備や母親のサポート体制などは、市の人口増加などに大きく繋がるので、PDCAを繰り返して、さらに質の高いサービス提供を目指していただきたい。

No.32健康課 評価の理由、事業の効果、今後の課題内容から担当者評価はaで良いと感じます。

②事業を高く評価できる。認知度が半分にも満たないので、今後も積極的に認知度向上を図っていただきたい。

③主要事業については、積極的に実施できていると感じるため、高く評価できる。

このような学習機会を多くの男性に参加していただくためにも、さらに周知させる必要があると思う。

【向井委員】

◆評価：①優②優③優

①No.29子ども子育て支援課 社会復帰を希望する保護者が増加する中で、待機児童数15人は十分評価できると思い、優にした。

No.32健康課 非常に価値ある取組みだと思う。開催日時や内容、開催形態の選択肢を増やしてより多くの親御さん達に参加してもらいたい。

②No.34介護福祉課 担当者評価と相談件数を考慮し、優とした。

③No.36健康課 フレッシュパパママ学級はこれから出産育児をするお父さんお母さん達にとって生活に役立つ講座だと思う。参加された方からも評判がとても良い。

No.36市民会館・公民館 男性の講座参加率も高く、講座を通して男女ともにスキルアップできる良い機会だと思った。【牧野委員】

◆評価：①優②優③良

①自分達の時に保育園に入れなかった等あったが、現在は数字を見ると待機児童が少ないので良くなったと思う。支援も色々あるので優とした。

No.29子ども子育て支援課 待機児童0%になるよう期待する。

No.30子ども子育て支援課 支援サービスが充実していると思われる。

No.30子ども育成課 ショートステイがあると助かると思う。

No.31子ども子育て支援課 学年の引き上げより待機児童がないようにしてほしい。

No.32健康課 参加者が多く親にとっても心の不安がなくなる。

③ 親の介護等の経験からも、様々な教室が開催されており、しっかりと行われて良いと思った。

No.34介護福祉課 市内5か所はどこか。

➡回答：東部（市民交流センター付近・竹口病院）西部（やまのかみ会館付近・愛全園）中部（あいぼっく）南部（市役所付近・愛全園）北部（ホテル昭和館北・ハピネス昭和の森）

② No.36健康課 大いに期待したい。

No.36介護福祉課 家族介護者の負担は大きいので、相談、教室があると助かる。【若林委員】

◆評価：①優②優③優

自分は育児も介護も経験し、行政サービスは全て利用した形になったので、自分を通してこの項目を見ることが出来る。他市と比べても昭島市は良いと思う。限られた予算ではあると思うが、少子高齢化に向けてさらに施策の達成に向けて充実発展させてほしい。

③ここの部分はアンコンシャス・バイアスをしっかりと改善していく必要がある。世間一般ではどうしても育児や介護は女性の仕事という認識がある。こういう事は小学校の時から意識の醸成をしていくことが大事である。昭島市にも様々な世代が暮らしている中で、施策は色々と実施されていて、参加する

方はするかもしれないが、しない方は行きづらいという思いがあるのかもしれない。また、啓発されていても、それを知らない場合もあると思うので、やはり幼少期からしっかりと、皆で助け合っていくのだということを醸成するべきである。よくやっていると思う。【岡部委員】

★担当課の自己評価が本当にあるのかというところがある。例えば①No.30子ども育成課がaをつけている。取組の狙いでは児童虐待の未然防止、予防に努めるとあり、評価は育児不安を抱える母親のメンタル維持に対応できたとなっている。しかしながら、昭島市でも虐待がなくなったわけではなく、課題はあるとあるが、この課題は施設面での物理的なものである。完全に解消されていないにも関わらずaをつけて良いのだろうかという面がある。ほかにアンコンシャス・バイアスや啓発子育て支援の事業は項目立てされているが、物理的なおむつ替えスペースが女性トイレにはあるが、男性スペースにはないという事等の支援を市が行うという事が項目立てされておらず、主要施策に入っていない事は難しく、仕方がないと思うのだがどこかで物理的な対応をできないかと思う。【掛川副委員長】

☆①優②優③優

成果が出ているところはあるが、表面的にも中身にも向くような評価をお願いしたい。【柴田委員長】

### 目標Ⅲ 7 配偶者等からの暴力（DV）の防止及び被害者支援の充実 ★重点施策

① 暴力の未然防止・早期発見

② 若年層への意識啓発と教育の推進

③ 配偶者等からの暴力などによる被害者の安全確保と自立支援

④ 被害者の安全確保のための関係機関の連携

#### ◇事務局より説明

目標Ⅲ—7 配偶者等からの暴力（DV）の防止及び被害者支援の充実は重点施策になっており、啓発も進んでおり、実務上関係する各部署、各関係機関との連携が重要であり、今後も引き続き緊密かつ迅速な支援を継続していく必要がある。No.37 女性活躍支援担当では職員に向け、DV 被害者への対応研修を実施し 290 人の職員が受講し、大きな意識啓発となった。

#### ◆評価：①可②良③可④良

啓発活動はうまくいっているのかと思う。ただ、関心のある人には届くが、そうでない人にどう届けるかが引き続きの課題となる。

①モニタリング調査の結果を見ても、現状維持となっている。一步進んだ取り組みを期待したい。

No.37女性活躍支援担当 習熟度の確認を行っている点は評価できる。

②若年層をターゲットに、Twitterを活用したのは一步前進。

今後、Facebook、インスタグラム、You tube等へと拡大できればなお可。

No.39女性活躍支援担当 トイレにカードを設置して啓発を行うアイデアは素晴らしいと思う。

③新規の取り組みが2項あり、市として力を入れている点がわかる。

モニタリング調査で、DVの相談件数が三分の二に減少しているにもかかわらず、担当課評価が高い気がする。過去には、シェルターに関する記載が見受けられたと記憶しているが、その記載が消えている。取り組みが後退している印象を受ける。検討課題から外されたのか、または設置されたのだろうか。【長谷部委員】

◇シェルターはDVから避難する場所となるが、現在は東京都が設置しているため、そちらと連携している。財政面もあるが昭島市民に安全に避難していただく場合は他市区へ避難する形となる。昭島市には民間施設もあるが、利用者は他市区民となる。そのようなこともあり、現在は市としてシェルターの設置は考えていない。避難施設は秘匿なため、報告書等にはあまり掲載することができない。【事務局】

☆②について長谷部委員は以前から若年層への啓発としてインターネットの活用等を提案していたので、取り入れられており評価できる。追加で明記させていただきたい。【柴田委員長】

◆No.41女性活躍支援担当 個人情報の管理は庁内で行っているか。または、外部に委託しているか。

→回答：庁内で実施している。個人情報の管理は、特定の職員間で連携し、被害者への承諾を得て厳重に行っている。

④庁内の連携は図られているようだが、外部機関との連携がどれほど進められているかがわからない。

【長谷部委員】

◆評価：①良②優③良④良

①特に問題はないと思う。

②引き続き取組をがんばってもらいたい。

③④は新規に始めたこともあり、評価は別としてうまく回っていけば良いと思う。【小林委員】

◆評価：①優②良③優④優

DVは叩く、蹴る暴力という他に言葉の暴力も今は強く言われている。被害者の方は情報を得ようとするが、加害者は自分のしていることが暴力にあたるかどうか認識がない場合があると思う。広報を目にしたときにDVに当たるか当たらないかを考えるきっかけにもなるので、被害者救済とともに加害者意識のない人が認識できるように、このように幅広く色々な広報することが加害者の行動の修正につながると思う。

①広報誌の全戸配布など積極的な広報が評価できる。DV相談窓口などは、定期的に広報誌に掲載するなど、多くの市民に周知できるように継続した広報を期待する。

②Twitterの利用は評価できるが、若年層向けということであるとまだできることはありか、もっと踏み込んで実施できると思う。施策名が若年層への意識啓発と教育の推進となっているが、取組内容からターゲットが若年層であるとは感じづらい。若年層がターゲットであるなら教育機関等からも意識啓発と教育を実施していく必要があるように感じる。

③担当課評価でcとなっている事業もコロナ禍で中止とすることなく、現状できる事業を実施できたと感じた。また、新規事業が2つあり、支援のために事業を実施できていると感じた。

No.40女性活躍支援担当 横のつながりを強化し、連携を図ったことは高く評価できる。

④動画視聴としたことで多くの職員が受講できたことは評価できる。継続していく場合は、マンネリ化しないように内容を変えるなど工夫をしていく必要がある。また、コロナ禍で連携会議が実施できなかったが、どうしても対面が困難な場合はリモート会議と書面会議を併用するなど、時期を失しないような工夫が必要になると思う。コロナだからと言って諦めることのないように実施していただきたい。【向井委員】

◆評価：①優②優③優④優

①No.37女性活躍支援担当 取組の内容が良い。研修後にアンケートを行ったりと、他人事になりがちなDV防止について真摯に取り組んでいる点が良いと思う。

②No.39女性活躍支援担当 広報誌とTwitterという性質の違う媒体に掲載し、様々な年齢に情報提供している点が評価できるため優とした。若年層ということであるが、市がどの年齢を指しているかと思うが、最近のTwitterの利用者は40～50代と言われている。そのような媒体は変化していく、今はインスタグラムであったりする。市がそのような全てを網羅するのは難しいことと思う。実際に自分は女子トイレに貼ってあるものを見て記憶に残っている。若年層から意識を変えていくことは非常に大事で、被害者にも加害者にもならないために、啓発するにはアナログな手段も必要かと思う。

③ No.41介護福祉課 取組内容、件数ともに評価できると思う。

No.41福祉総務課 担当課評価はcであるが、生活・高齢・障害福祉部会と合同で、研修会を実施しており、コロナの影響がある中での取組としては評価できるため、全体の評価は優のままとする。

④No.45女性活躍支援担当 各関係機関との連携強化は相談者を守るうえで非常に重要だと思う。今後も引き続き期待している。【牧野委員】

◆評価：①優②良③優④良

DV等身近で話がなかったため、本当にあるのかという最初の印象であったが多くあることを認識した。

③ No.41障害福祉課 相談があったら早急に対応してほしい。自分達はなかなか相談ということをしな  
いが、相談先が分かるようにしてもらいたい。

No.41福祉総務課 民生委員の方が誰か分かりづらいのでわかりやすくしてほしい。【若林委員】

◆評価：①優②優③優④良

市内に13校の小学校があり、約5,000人の児童がいて、ここに書いてあるようなことは、学校現場で起  
きている。子ども家庭支援センター等と連携も取り合っており、実際に何か起これば様々な対応をして  
いただいているが、事件が起これないために、また、起きたとしたときに氷山の一角でないと良いと思  
っている。今年も9月1日から一斉に2学期が始まるが、夏休み中も何かしらあったのではないかと思  
う。既に報告が来ているものはわかっているが、報告がないもの等は人権というフィルターを通して、  
全てしっかりと汲み取っていく必要があると考える。

報告書には多くの啓発が記載されており、それは大切な事である。例えば、子どもにお守り代わりにカ  
ードを渡し、ランドセルに入れておくようにした際、実際に子どもが電話をかけて、事故が分かった等  
の事例もあるので、啓発することの大切さを認識し「無駄ではないか、効果がないのでは」と思わずに  
継続していくことが大切である。初期対応、中長期対応もあるが、未然防止をどれだけできるかが、子  
どもや高齢者の被害を減らせることに係ると思うので、そこにも焦点を充てていただきたい。

④No.41福祉総務課 活動にどのような制限があったのでしょうか。【岡部委員】

➡回答：コロナ感染症拡大のため、東京都から民生委員についての活動制限要請があった。

★①失礼ながら、昭島市は配偶者暴力が起きているイメージがある。しかしながら、それは啓発が進んで  
いて声が上がって、相談につながっているからなのではという気がしている。市の規模から言って。No.42  
のDV等相談件数94件はそれなりの数である。連携がとられているので、公的支援の必要な案件となり、  
関係機関とつながっているのではないかと思う。

②他の委員からもあるように、啓発は継続していただきたい。何がいけないかことなのかということ  
を言い続けていけば、市民のアンテナも高くなる。課題とされる、無意識でDVに該当することをして  
いる方も自分の行動を見直すきっかけになると思う。被害を受けている人は自分で声をあげるのが  
難しい心理状態である。周りの方が気づきこれはおかしいことだから、一緒に相談に行こうとい  
うことが大切であり、若年層からの啓発が大切になってくる。デートDVということが自分のこと  
であると気づけない方も多く、ポスターや啓発媒体でこういうことはDVであると具体的に紹介され  
ることで気づけると思う。牧野委員からのTwitter利用者の年齢層が高いというご意見もあり、  
ポスターやカードのような古典的な啓発も中学生や高校生が見るため、効果はあると思  
うので、公共施設に貼る等引き続きお願いしたい。【掛川副委員長】

☆①優②良③優④良とする。【柴田委員長】

### 目標Ⅲ 8 あらゆる暴力に対する相談支援・関係機関の連携・防止啓発の推進

① 性犯罪及びストーカー被害等の暴力防止の啓発・相談支援

② ハラスメント防止のための啓発・相談支援

◆評価：①良②可

暴力防止に関連し、市にはスポーツ振興課もあるが、スポーツ現場での暴力暴言の防止の対策もお願いしたい。サッカーのコーチが熱くなって暴言を吐いてしまうところを見たりする。コーチは気付いていないが多くの子どもの心を傷付けている。そして親もそうである。期待の裏返しであるのは分かるが、親のいうことなのでひどいことを言われても子どもは聞いている。将来的にはその部分にも踏み込んでいただきたい。

① 広報手段を広げようという努力が見受けられる。

② 過去の活動と大きく変わっていない。男性に対するハラスメントについての言及が見られない。

啓発が広まって来ており、男性はハラスメントに関して意識をしている部分が増えてきたので、女性から男性へのハラスメントの予防にも言及されても良いと思う。【長谷部委員】

☆今のスポーツの話はコーチからのハラスメントということになるかと思う。【柴田委員長】

◆評価：①優②良【小林委員】

◆評価：①良②良

①評価理由にも記載されているが、効果の可視化は難しいが被害者が手を差し伸べて欲しいタイミングで相談窓口等の情報が得られるように継続した広報が必須となる。

②コロナで受講人数が減ってしまったことは致し方ないと思うが、コロナ禍であるからこそ増えてきたハラスメントもあると思うので、ハラスメント問題は時期を失ってしまうと人命にも関わる大きな問題であるため、切り離して考え、即時対応することが不可欠であると思う。事業を継続していく中で、毎年同じような内容を実施しては形骸化してしまい、実効性のある啓発ができないので、指導方法や内容を変更するなどの検討は必要であると感じる。【向井委員】

◆評価：①優②良

小学生の子どものラインのやり取りを見ると、かなり際どい内容である。小学生等には学校でのサポートもお願いしたい。相談件数に入っていない人達がいることが考えられるが、啓発方法は難しいとは思いますが、市として相談できる窓口がある、いつでも開かれている、ということ啓発していることに価値があると思う。

① No.47秘書課 相談実績はなくとも、対応できる形を整えていることで十分評価できると思う。

②No.49秘書課 2年連続相談件数0件であり、必要としている市民がいないのか、必要としている市民はいるけれど「人権身の上相談」が認知されていないのか、もしくは別の機関に相談しているのか、判断できないため評価しにくいですが、他の事業の取組から全体の評価は優とした。

No.50職員課 研修の参加人数も十分である。【牧野委員】

◆評価：①優②優

テレビでのニュースを見ていて、もっと早く啓発等対応してほしいと思っていたことがあったが、このような形で色々実施していると思うので優とした。

② No.48秘書課 見学者数が出ていない。

➡回答：コロナ禍のため、パネル展にて人権擁護委員を配置できず、集計ができなかった。

No.50職員課 全職員を対象とする取組はいいと思う。【若林委員】

◆評価：①優②良

No.47秘書課の相談対応が0件で良かったのか、水面下で何あったが表に出なかったのか、両面で見えていく必要があると思う。

ハラスメントは様々あり、そこは人権という視点で啓発、研修等を行い更に充実させていきたい、

②No.49秘書課 コロナ禍なので、人権擁護委員の方が面談をできなかったとあるが、人権擁護委員の方に任せるのではなく、市としても様々な準備をし、人権擁護委員の方にも配慮しつつ、対面以外の方法

も模索していただきたい。【岡部委員】

★①このような案件を市に相談しようと思うのか、というところがあるので、通常相談するであろうと思う警察等への繋ぎや連携ということを重視していただく方が良い。

②啓発は継続が必要であるが、マンネリ化を防ぐため、今後それぞれがどう考えていくかが大切である。

【掛川副委員長】

☆①優②良

②ハラスメント防止のための啓発・相談支援については形骸化することが無いよう実施していただきたい。【柴田委員長】

#### 目標Ⅳ 9 生涯にわたる男女の健康の包括的な支援 ★重点施策

① リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）についての理解の促進

② 年代や性差に応じた健康づくりの支援

③ こころの健康に関する支援

◇事務局より説明

目標Ⅳ－9 生涯にわたる男女の健康の包括的な支援も重点施策である。リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）やさまざまな年代の健康に関する包括的支援は、今後ますます重要視される施策である。

◆評価：①良②良③良

①No.51女性活躍支援担当 今までになかった活動であり、これまでより一歩進んだ取り組みが見られた。

②過去の取り組みの結果が表れてきている。今後も、出産、育児をしやすい街づくりを進めてほしい。

昭島市は人口の増減に著しい変化はないが、一般に出されている人口予想で昭島市も数十年後は人口が大きく減少すると考えられているので、減少してからではなく事前に検討していくべきである。

No.57健康課 担当課評価は「b」で良いと思う。

No.57介護福祉課 サークルが立ち上がるというのは、素晴らしい傾向だと思う。

③コロナ禍で重要性が増している。継続してサポート体制の充実を図っていただきたい。【長谷部委員】

◆評価：①良②良③可

③取組の内容と狙いから具体的な効果や実績はどのようになっているのか。【小林委員】

→回答：（健康課）実績は10代の相談件数はR2年度26件からR3年度60件に増加。39歳までの若年層の相談対応件数はR2年度189件に対してR3年度225件。自殺リスクにつながる経済困窮を伴った20代から30代の相談件数が増加しており、関係機関との連携回数が増加。「人生のこの先の見通しが立たず、死にたくなった」という10代男性からの相談に対して、受診先の調整や経済困窮への対応、居場所づくりなどで、生活福祉課や社会福祉協議会との連携を図り、安定して生活できるように対応した。

（障害福祉課）一度の相談で終了することがないため、効果は出にくいものの、相談時には随時必要な関係機関を案内する等、生活が安定するよう長期的に継続して対応している。

◆評価：①優②優③良

①担当課評価bが2つあるが、事業の取り組みとしては教室や生理用品の配布など評価できる。女性の健康づくり教室は、とても良い事業だと感じたので、参加者を増やして効果的に実施できるとよいかと思う。

No.51秘書課 この事業自体は素晴らしいが、この施策の項目ではないように感じる。

②令和3年度は全体的にコロナで縮小や人数の制限があったが、事業としては評価できると思う。コロナに関係なく実施できるようであれば、縮小前の規模で実施できるように調整していただきたい。

③C評価については、課題として挙げられた部分は改善していただきたい。人命に関わる業務なので、一つの事案にかかる時間が多く、苦慮されることも多いと思う。相談件数に対して対応する職員数が適切であ

るかなど見直しも必要かと思う。【向井委員】

◆評価：①優②優③優

①No.51健康課 評価が厳しいかと思う。どのような講座の内容なら参加したい市民が増えるかを検討し、今後に期待したい。

No.53女性活躍支援担当 分かりやすい記事で中学生にも理解しやすかったと思うし、生理ナプキンの配布について周知できたことは価値があると思う。

③ No.54健康課 担当課評価はbであるが、取組の内容、件数ともにaで良いと思う。

No.57健康課 対象者が比較的に高齢な点もあり、コロナの影響を大きく受けたのだと思う。コロナが落ち着いたら期待できると思う。

④No.58健康課 担当課評価はcであるが、10代の相談件数が増加した点、相談件数を考慮すると、評価bでも良いと思い全体の評価を優とした。やはり課によって自己評価に差があると感じる。【牧野委員】

◆評価：①良②良③優

②No.54健康課 不妊治療の助成から出産産後のケア、乳児家庭訪問等、良く支援対策をしている。【若林委員】

◆評価：①良②良③良

①No.51秘書課 どの窓口で、何部程度配布できたのか。周知方法はどうかだったのか。

→回答：現在は秘書課、企画政策課の窓口での常時配布と人権パネル展での配布を行っているが、部数は把握していない。以前は青少年フェスティバルで400部程度配布していた。

②No.57健康課 受診率の50.1%の捉え方について。経年で増減の傾向が分かると評価しやすい。

③No.58健康課 「評価の理由・事業の効果」からはマイナス的な表現がないため、なぜCなのかははっきりとつかめなかった。【岡部委員】

★①名No.51秘書課はリプロダクティブ・ヘルス/ライツの啓発にはなっていないかと思う。No.53生理の貧困については効果的な啓発である。③健康課の自己評価が厳しいと思うが、今後も続けていただきたい。【掛川副委員長】

☆①良②良③良とする。【柴田委員長】

目標Ⅳ 10 配慮を必要とする人に対する支援と多様性を尊重する環境の整備 (NEW)

① 高齢・障害等により配慮を必要とする人に対する相談支援

② ひとり親家庭等への支援の充実

◇事務局より説明

目標Ⅳ-10 配慮を必要とする人に対する支援と多様性を尊重する環境の整備は、新規に組み込んだ分野である。高齢者や障害者、ひとり親家庭への相談件数は、年々増加しているが、各種相談支援の充実は概ね十分となっており、評価できるものとなっている。

◆評価：①優②良

①取り組み内容が素晴らしい。課題についても具体的で、方向性が明確。

②ひとり親家庭には、父子家庭も含まれているか。その割合は？

→回答：児童扶養手当の受給世帯数 784世帯 内父子世帯は65世帯（18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある児童を扶養している、所得制限内の方）

◆相談を受けてからの対応は評価できるが、積極的な広報やサポートが行われているかは読み取れない。【長谷部委員】

◆評価：①良②良

①コロナ禍で積極的に進めることが大変と思うが、認知度の向上は具体的にどのように考えているのか知り

たい。

➡回答：数字は5年に一度の地域福祉に関する市民アンケートで確認している。最新の数字は36.3%であり、認知度向上のために、サロンの訪問や、よろず相談窓口等で啓発に努めている。

②引き続き努力してほしい。【小林委員】

◆評価：①優②優

①コロナの影響を受けているものの事業を継続している点は評価できる。希望しているにも関わらず参加できていない方々への対応については要検討であり、公平に市民が参加できるよう配慮してほしい。

②相談体制や支援体制は概ね良好と感じる。【向井委員】

◆評価：①優②優

①No.59介護福祉課 相談件数も多く、必要な支援が実施できていることから優とした。

②No.61子ども子育て支援課 ひとり親家庭等への相談体制や支援は充実していると考え、評価を優とした。

No.63福祉総務課 緑会館の開催を見たことがあり、参加者は実際いたので、参加者に地域性はあるものの、今後この事業をどうするかを検討する際に、緑会館での様子は参考になるため、一か所であっても開催している価値は高いと考え、担当者評価はcですが、全体の評価は優とした。【牧野委員】

◆評価：①良②良

色々実施していると思う。【若林委員】

◆評価：①良②良

No.60障害者相談件数15,858件は多いが、No.63子どもの学習支援生活支援登録者19名延べ参加者322名となっている、そうするとNo.60の相談者が実際は何名かと思う。同じ人が何回も相談していると思う。

②No.63福祉総務課 東部・中部地区についても実施できると参加しやすいと思う。【岡部委員】

★相談支援はユーザー側の意見は取っているのかと思う。市は十分と想着いても、ユーザーが十分とは考えているかはわからないため、各課で工夫していただきたい。

①今後の発展を期待して良としたい。

②子どもは行動半径が限られているので、地域性や子どもが行きやすい場所で色々展開していただきたい。

【掛川副委員長】

☆①良②良とする【柴田委員長】

#### 目標IV 1 1 防災・環境分野等のまちづくりにおける多様な視点の反映

① 防災・復興体制のまちづくりにおける女性参画の推進

② 地域防災活動における男女共同参画の推進

③ 都市計画・環境分野における男女共同参画の推進

◆評価：①不可②良③優

①女性委員の割合が減少しているのに、b評価は甘すぎる。

②女性委員の割合が順調に増加しているため、目標値の達成が望まれる。

③環境問題、ごみ問題等については、若年層の参加が望まれる。モニタリング調査でも、女性委員の割合が上昇している。

No.66ごみ対策課 非常に興味深い取り組みであるが参加者の年齢層は？

➡回答：公募の市民委員は30代2人、50代1人、70代2人 計5人。若い世代の意見も反映させるため、30代の方に新たに加わっていただいた。

◆30代が加わっているという事で非常に素晴らしい。【長谷部委員】

◆評価：①良②良③優

①引き続きすすめていただくと良い。



②引き続きすすめていただけると良い。

③新規区分もあり、女性の割合も多く、引き続きすすめていただけると良い。【小林委員】

◆評価：①優②優③優

防災面では女性の参画がまだ少ない中、参加を増やそうという積極的な姿勢が見えたので優とした。

①防災面に対して女性の参画を推進している点は評価できる。

②概ね良好であるが、女性の意見を反映させるのであれば、まだまだ参画率が満足とは言えないと思うので、継続して推進してほしい。

③新規事業では女性の意見を反映させることができたことは評価できると思う。現状ではまだ満足とはいえないため、さらに女性の参画を推進する必要がある。【向井委員】

◆評価：①良②優③優

①No.64防災課 目標値と乖離している割に課題と今後の予定に具体性がなく、不安はあるが、担当課評価を信じ良とした。

②No.65防災課／福祉総務課 女性の割合が目標まであと少しであり、現段階での数値としては優と判断できると思う。

③No.66環境課 男女ともに参加しており、評価できる。

No.66ごみ対策課 女性の参加もあり、今後の取組みにも期待できると思う。【牧野委員】

◆評価：①良②良③良

②No.65防災課／福祉総務課 女性の参加者が多く、避難対策にも関心が出て来ている。【若林委員】

◆評価：①良②良③良

女性参加が主要施策となっている。色々な会議等にも出ているが、委員は団体からの推薦の方と公募委員の方という。団体からの推薦で充て職の場合、ある程度男女比が分かっていると思われる。よほど女性会員が多い団体でないと女性の委員の参加は望めないのではないかと。自治会連合会の名簿を見た場合も、役員という女性もそれなりにいるが、その中で会議に出席する役員という男性が多数になる。

No.65防災課/福祉総務課 避難所運営委員会に自分も参加しているが、防災会議の方のメンバーが充て職という現状では必然的に男性が多くなってしまふ。ただ、赤十字の団体等は女性が多い団体なので、女性をないがしろにしているわけではなく、ある一定の理解はされていると思う。【岡部委員】

☆「11 防災・環境分野等のまちづくりにおける多様な視点の反映」には不可の評価が入っているため、その部分をのちほど事務局から説明願う。【柴田委員長】

★①防災会議の女性委員が9%は少ないと思うが、岡部委員のお話のとおり各団体のトップが充て職で来ているからこのような形になっているという事を考えると、社会全体の構造として定例化しているのではないかと思う。しかしながら、このままで良いわけではないので、例えば長ではない方に参加していただき、その際には、団体の意見をしっかりと聞いてきていただく、会議毎に男女交互に出席する、女性委員枠を設定する等検討できることはあると思う。

不可とまではいかななくとも、評価が甘いことや取組みが見えないということで、不可が付いたことを重く受け止めた方が良くと思う。可なのか良なのかという委員会での判断の状況が担当課にうまく伝われば良いのだが。【掛川副委員長】

☆優等もあることから、バランスをとり、良あたりが妥当か。ただし、長谷部委員のご意見も重要な論点があるため、事務局から説明願う。【柴田委員長】

◇防災会議は学識何名、公募何名と決められている。学識は、小中学校の校長会や商工会等の団体へ依頼しているため、男性が多い、今は審議会等においてクオータ制度の導入も都で取り入れられており、市の中でも男女比の構成も考えていかなければいけないという動きも出てきているため、規則や条例等から手をつけていく必要もあろうかと思う。皆様のご意見をもとにそれぞれの担当部署に伝え、市の方向性もそのような舵取りもできるように情報発信を出来ればと考える。【事務局】

☆岡部委員や掛川委員のご意見のように制度的なものが影響している。良の評価も多かったため、良とするが、

長谷部委員の意見も重要な論点を含んでいるので、数値に関して誠実に、また、制度設計の変更に関しても誠実に考えていただいた方が良い。強くコメントを付け加える。また、委員は任期が2年あるので、また同じ内容であれば可、または不可になることを付記させていただく。不可には非常に重い意味があることを認識していただきたい。

①良②良③優 とする。【柴田委員長】

#### 目標IV 12地域活動における男女共同参画の推進

##### ① 地域団体・社会団体等への活動支援

##### ② 地域活動等への男性の参画の推進

◆評価：①可②良

①具体的な支援体制に関する記述が欲しい。抽象的でわかりにくい。

モニタリング調査で、登録団体数が減少している。その理由は？統廃合があったのか、又は支援体制が不足しているからではないか？

→回答：高齢者に関係する団体が、コロナ禍で活動ができず解散している。しかし、生活コミュニティ課や社会福祉協議会では、オンライン会議でのZOOMの活用術の講座等を団体向けに開催し支援した。

◆今後どのようにサポートしていくかが、新たな課題となる。

No.67福祉総務課 ある程度の成果があったのであれば、b評価でも良いと思われる。

②男性の参画にフォーカスした取り組みが増えてきている。

NPO法人にできる団体とできない団体がある。制度上クリアしなければならないことも多くあり、手間暇かけられる人がなかなかいないのが現状で、サークル活動にとどまってしまう。子育て団体なども自分の子どもが成長したら後継者がいないため、自然消滅してしまうパターンもある。支援をそういうところにも広げてもらいたい。

制度上の問題でNPO法人化を避ける団体もあり、そのような団体へのサポートも必要である。後継者問題を含んでいる団体等へのサポートも必要であり、子育てに係る育児団体の場合、子どもの成長、親の転勤により自然消滅する傾向がある。【長谷部委員】

◆評価：①良②良

①引き続き進めていただけると良い。

②引き続き進めていただけると良い。【小林委員】

◆評価：①良②優

①本件については、男女共同参画の推進状況が満足であるとは判断できなかった。

No.67福祉総務課 どのような部分が評価cとした要因かが不明である。

→回答：事業をボランティアセンターに委託しているため、評価が見えにくい部分があるが、多様な状況の相談にさらに踏み込んで対応していきたいため、Cとした。

◆委託した中で評価がCという事であれば、結果がフィードバックされていないのではないか。

②事業全体としては、概ね評価できると思う。それぞれ実施していることは非常に魅力的な事業であるため、参加者がさらに増えるように市民へ情報提供を積極的に実施していただきたい。【向井委員】

◆評価：①良②優

①No.67福祉総務課 担当課評価がcであるが、その理由や事業の効果を見ると全体としては良と評価した。

No.68生活コミュニティ課 複数の部署で情報を共有しながら支援を行っている点が評価できる。

②No.69社会教育課 オンラインで開催できた点は評価できると思う。今後の取組にも期待が持てる。

No.70社会教育課 国や都の情報を掲載することで学習の機会が増える点は価値が高いと思う。【牧野委員】

◆評価：①良②良【若林委員】

◆評価：①良②良

①No.67福祉総務課 なぜ、cなのか具体的状況が分からない。【岡部委員】

➡回答：事業をボランティアセンターに委託しているため、評価が見えにくい部分があるが、多様な状況の相談にさらに踏み込んで対応していきたいため、cとした。

☆①良②良 とする。【柴田委員長】

### 3 その他

#### 事務連絡

◇第3回委員会は、9月16日（金）午後6：30から

今回はこれまでの審議の確認や男女共同参画プラン年次評価報告書を作成するにあたって、進捗状況の課題等についてご検討いただく

～閉会～